



満月 (Blue Moon) の夜に

今 溝 孝 男

万葉の時代からわが国は、月に対しての憧れや夢を抱いてきました。

例えば、今日においても、中秋の名月の日には月見団子やその年に取れた作物を魔よけとなるススキと一緒ににお供えし十五夜を眺め、残暑がようやく下火になり秋風が立ち始めたひと時をすごします。また、「竹取物語」のかぐや姫や月にウサギがいて餅をついていると想像し色々な夢を月の世界に描いてきました。

月は、新月から日々明るく見える部分が増えていき、15日あたりで満月となり、またかけ始めそして新月へと戻っていきます。この間約29.5日です。

日本には、月を古来より特別な呼び名で呼んでいます。

月齢0を「新月」と呼び、月齢2.3あたりを「三日月」「眉月」「夕月」と呼びます。夕方の西の空に見える月が眉のように細く見えることがこのように呼ばれているのでしょう。13日頃の月は「十三夜月」「後の月」と呼ばれ、満月の夜の二日前の月にあたり、古来より満月に次いで美しいとされています。特に陰暦9月13日の月は特別扱いだそうです。15日目はご存知の「十五夜」「満月」「望月」です。

昔は、十三夜月と十五夜のどちらか一方しか見ないのは「二夜の月」と呼ばれ不吉なこととして忌み嫌われていたそうです。

十五夜を過ぎると、人々が月を見る機会が多くなることから、日に日にその状況に応じた名称で呼び親しまれていました。

16日目、「十六夜月」（いざよいづき）昨日の満月より月の出が遅くなるため、ぐずぐすと月が

出るのをためらっている様に見えることから付けられたと言います。

17日目、「立待月」（たちまちづき）月の出を立ったまま、まだかまだかと待っているいると出てくることからつけられたと言います。

18日目、「居待月」（いまちづき）月の出が段々と遅くなることから、家の中で座って待っていると月が出てくることからこう呼ばれています。

19日目、「寝待月」（ねまちづき）、「臥待月」（ふしまちづき）月の出を寝て待たないと出てこないほど遅い時間まで起きていないと月の出を見ることが出来ないのだからこう呼ばれています。

20日目「更待月」（ふけまちづき）、「亥中の月」（いなかのつき）夜が更けないと出で来ないことからこうよばれています。ちなみに「亥の刻の中頃」と言うと22時頃を指し示しますが、夜が遅い現代人にとってはなんともまだ感じない時間帯かも知れませんか。

23日目「二十三夜月」（にじゅうさんやづき）真夜中に昇ってくる月を指し示しています。下限の月と呼ばれる月です。

26日目「二十六夜月」（にじゅうろくやづき）3時頃昇ってくる月で、丁度「三日月」を反転したような形状をしています。

「二十三夜月」「二十六夜月」は月待ち信仰の対象ともなっていました。

他にも、気象現象と相まって、「おぼろ月」とか色々な名称で呼ばれています。

今年2010年は、月に関する珍しい現象があります。

現在使用している暦では、2月を除きひと月は30日もしくは31日まであります。月の周期は約

29.5日です。という事は、一月の間に満月が二回あっても不思議ではないはずです。しかし、そのようなことは頻繁に起こるはずがありません。

ごく希に、ひと月の間に二回満月が見られることがあります。これを「ブルームーン」と言います。月初めに見られる月を「ファーストムーン」月末に見られる月を「ブルームーン」と呼んでいます。ブルームーンとは天文学での正式な名称ではありません。

「ブルームーン」は文字どおりに月が青く見えるわけでもなく、ただ単に「めったに起こらない、まれな現象」として、1980年頃からこのような呼び名が付けられるようになったのだそうです。

ブルームーンの周期性を紐解く鍵として、紀元前433年にアテネの数学者であるメトンが発見したと言われている太陽と月とが一致する周期があるという「メトン周期」を用いて計算すると、実際に二回満月が見られる月があることがわかります。

メトン周期自体は精度誤差が多いため、その後カリポスと言う天文学者により修正され、さらに、ヒッパルコスによって改良修正されています。一

般にヒッパルコス周期と呼ばれているものがこれに当たります。

2010年はこのブルームーンが二回起こります。

まずは1月です。1日が満月であり、しかも年明け早朝に部分月食（最大食分0.08）が見られます。この日が「ファーストムーン」となります。そして1月の31日が再び満月となり、「ブルームーン」と呼ばれる月が見られます。

さらに、3月には再びブルームーンが見ることができます。1日が満月となり「ファーストムーン」で30日が同月二回目の満月「ブルームーン」です。

ブルームーンとは良い意味で使われる用語では無いようですが、「ブルームーン」を見ると幸せになれるという言い伝えがあるそうですのでご覧あれ。

「ブルームーン」は3年または5年に1度くらい起こります。年に2回「ブルームーン」が起こると言うのは本当にごく稀な事なのです。

「ブルームーン」は特別に月が青くなるわけではなく、ただ単に「めったに起こらない、まれな現象」として、この名前がついているようです。

Column

(お詫び) 前号(関西支部報第74号)47ページのコラムの説明文が絵に対して違う内容が入っておりました。謹んでお詫び申し上げます。今回改めまして正しい内容を掲載いたします。



(提供：豊田氏)

水路閣（南禅寺）

水路閣は、南禅寺の一部のごく当り前に存在している。明治の初期に日本人によって作られた琵琶湖疏水の一部分だが現在も十分にその機能を失わず使われている。

描いてみたくて一度は描いてみた(6/23)が、やはり手間をかけないと自分に納得できるものにならず、再チャレンジ。

絵を描く側から言わせてもらえば、もう少し木々を整理してほしいのだが、適当に木を間引くことにしてデッサンを始めた。途中から現役をリタイヤされた1組のご夫婦もスケッチに加わった。